

不当な解雇は「怒ってごうじやう」

西予市在住 大池ひとみ

いつも変わらぬご支援を本当にありがとうございます。

JALからお給料を頂けなくなつてまもなく9年が経とうとしています。考えてみると恐ろしいことです。別の仕事を探して糊口を凌いでいる者も多々ありまして、私もその一人ですが、職を得ることがいかに大変か、この歳になつて、しみじみ感じています。まず、年齢でひっかかります。そして、資格が何もない。さらに、争議団としての活動があるので、フルタイムでは働きにくい。なかなか厳しい状況です。

資格を取るにはお金がかかる。時間もかかる。それらが工面できない人は、やりたい仕事に就くことができない世の中になっている日本。仕方なく、大枚をはたいて幾つかの資格を取りました。まだ全然、資金回収できていませんが、今回は、その資格の中のひとつ、「アンガーマネジメント」についてのお話です。

「アンガーマネジメント」とは、「アンガー」＝怒り、「マネジメント」＝コントロール。つまり、自分の中に湧き上がってくる怒りを上手にコントロールするというこ

とです。協会では、それを「怒り」とは後悔しないこと」と訳しています。日本では「怒ること」は悪いこと、恥ずかしいことだという風潮があります。でも、アメリカでは、怒りの感情と上手に付き合うための心理トレーニングが1970年代から始まっているそうです。「怒ることは人間の自然な感情なのだから、無理に抑える必要はない」「怒るべき時に上手に怒り、怒らなくてもいいことには怒らない」ですむように、幼いころから大人が子共に教えることが大事な

とです。日本では、それが全くなくおざりにされてきました。キッズ用アンガーマネジメントでは、子供たちに最初に約束してもらうことがあります。「怒ってもいいんだよ。でも、三つだけやっちやいけないことがあるから、それを守ろうね」。その約束とは、「相手を傷つけないこと」「自分を傷つけないこと」「物を壊さないこと」この三つです。これは、そのまま大人にも当てはまる約束です。

(裏面に続く)

JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
松山市三番町8-10-2 Tel. 089-945-4526

私も 応援 します

大声でエールを送ります



松山市在住 前川 千鶴江

様々な集会で訴える姿を拝見し、理路整然とした解かりやすい話し方、張りのある声にいつも「すごいなあ」と感心しきり。素敵なお顔の奥にたぎる闘志を感じずにはおれません。また、メーデー集会で見せる茶目っ気たっぷりの被り物、物販の時の巧みな話術にも驚かされます。

私の退職時に、そっとお花を机の上に飾ってくれる心遣いは忘れられません。まだお礼も言えてなかったことを恥この場で伝えたいと思います「ありがとうございました」。

どんなに困難な闘いでも「明けない夜は無い」ことを信じ、これからも頑張ってください。微力な私ですが、大声でエールを送ります。

JAL 争議団の皆さんの頑張りにいつも頭が下がります。

林さん、大池さんと言うと、通信労組のストライキ支援行動の折の「人の命を守る」お二人の行動が思い出されます。呆然と立ち尽くしている大勢の中から、迅速かつ冷静にテキパキと指示を出しているお二人の所作にすごさを感じました(後で知ったのですが、実践は初めてだったとか)。この時改めて、経験豊富なベテランCAの理不尽な解雇に、残念さと怒りが湧き上がったことを思い出します。

私にとってCAという職業は、どこか「高値の花」で近寄りたくない存在というのが本音でしたが、お二人と知り合い、同じ働く仲間なんだと思うようになりました。

今年も 暑い夏を頑張りました



8月11日 松山空港前宣伝



8月23日 徳島駅前宣伝



9月2日 G20労働・雇用大臣会合開場前宣伝

「傷つける」というのは、肉体的な暴力だけではありません。態度、表情、声の大きさ、トーン、言葉、すべてその要素となります。怒りが湧いてきたとき、そのルールを守らなければ、相手を傷つけ、また、自分もあとで後悔することになる、ということなのです。そうやって、順々に怒りのメカニズムを解いていきます。

今回、私がここでご披露したいのは、たくさんのステップの中から「怒りの温度を計ろう」という項です。

小グループに分かれて、過去1週間を振り返ってみてイライラしたこと、腹が立ったことを書き出してみます。そして、グループ内で発表します。次に、今まで自分が生きてきた中で最大の怒り、これ以上怒ったことがないというくらいに怒りを思い出してみ、それを10とした場合、先ほど出した怒りはどのくらいか皆で温度計に印をつけます。それぞれが自

分の人生をたどり、今までで最高の怒りを記憶の中から引っ張り出し、それを10とし、では、先ほどの最近の怒りはどのくらいか、と温度を定めて、また発表します。

「子供に部屋を片付けなさいと何度も言ったのに、片づけをしなかった」「風邪で具合が悪くソファに横になっていたら、旦那が帰ってきて、めしは？と聞いてきた」「義理の母に、やらないで下さいとお願いしていたのに、こっそり子供にお菓子を与えていた」いろいろな怒りがあって、それが5だったり、6だったり、8というのも出てきたりします。

私の人生最大の怒りは、何と云ってもJALを不当に解雇されたことです。これ以上の怒りがほかにあるでしょうか？温度は10で収まるわけがなく、それを突き破る200とか300とか、鋼鉄をも溶かすほどの高温です。それを考えれば、「電車に乗るとき足を踏まれたのに無視された」とか「食事の約

束をしていたのに、ドタキャンされた」とか、「いつも守っているのに、たまたまスピードを出したらパトカーに捕まった」とか、そういう怒りは、私の中では、0.0001くらいにしかないことになり

JALから超メガサイズの怒りを受けたおかげで、日頃の怒りは些細なものに感じてしまう？ なのでしょうが、やっぱ、10に近い腹が立つことはいっぱい出てきます。世の中は理不尽なことだらけですから。その怒りを「怒っていいこと」「怒らなくてもいいこと」の二つに分け、さらに、「すぐに変えられること（コントロールできる）」か「変えられないこと（コントロールできない）」かに分けます。「怒っていいこと、でも、すぐには変えられない」場合はどうしたらいいのか？ 答えは「現実的、具体的な対処策を見つけること」になります。協会も、整理解雇は想定外のことだったかもしれないかもしれませんが、とにかく、それには時間がかかります。もう十分を重ねました。あと3カ月で9年です。10年目に突入したくはないんです。本気で年内解決を目指します！

先日、「近所の支援者の方が「JALの解雇問題は歴史に残る闘いだ。筋をきっちり通した解決をしないとイケない。中途半端なうやむやなことで終わらせてはダメだ」とおっしゃいました。そのとおりだと思います。私たちの尊厳を傷つけ、人生を大きく狂わせた不当な解雇は、どう考えても抑えることのできない「怒っていいこと」でしょう。その人生最大の怒りを胸に、「怒っていいこと」を納得いく形で「変えていく」ことを継続していかねければなりません。

皆様のご支援が大きな後押しとなります。引き続き、最後までどうぞよろしくお願い致します。